

令和6年度第1回富山県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和6年5月2日(木) 13:00～14:45

2 場 所 県庁4階大会議室

3 出席者 富山県知事 新田 八朗
富山県教育委員会
教育長 廣島 伸一
委 員 坪池 宏
委 員 村上 美也子
委 員 大西 ゆかり
委 員 黒田 卓
委 員 牧田 和樹

有識者 品川 祐一郎(県立高校教育振興検討会議会長)

学識経験者 林 誠一(富山大学大学院教職実践開発研究科教授)

4 事務局出席者 経営管理部長 南里 明日香
理事・経営管理部次長 坂林 根則
理事・教育次長 水落 仁
教育次長・教育みらい室長 中崎 健志
教育次長 小杉 健
参事・教育企画課長 板倉 由美子
学術振興課長 水上 優
県立高校改革推進課長 丸田 祐一
教育みらい室課長 嶋谷 克司
他関係課職員数名

5 議 事

- (1) 次期教育大綱および教育振興基本計画の策定について
- (2) 県立高校における教育振興について

6 会議の要旨

司会が開会を宣し、新田知事の挨拶後、富山県総合教育会議運営要領第3条並びに知事の指名に基づき、以後の議事については南里経営管理部長が進行した。

- (1) 次期教育大綱および教育振興基本計画の策定について
(南里部長)

- ・事務局から資料1について説明する。

水上学術振興課長が、資料1「次期「富山県教育大綱」・富山県教育振興基本計画の策定について」を説明した。

(南里部長)

- ・ただいまの事務局の説明について、知事から発言いただく。

(新田知事)

- ・令和5年に国の第4期教育振興基本計画が策定され、そのコンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられたところである。
- ・国の教育振興基本計画や、昨年本県で開催されたG7教育大臣会合の成果文書である「富山・金沢宣言」にも、本県の教育で目指す姿として掲げている「ウェルビーイングの向上」が盛り込まれたことを契機に、県と教育委員会が足並みをそろえて教育の振興に取り組めるよう、本県の次期の教育大綱改定に合わせ、教育振興基本計画も1年前倒しして、改定することとし、大綱に計画を盛り込んだ新しい教育大綱を策定することとしたい。
- ・教育環境を取り巻く様々な変化に、県と教育委員会が足並みをそろえて、迅速に対応していきたいと考えている。
- ・次回の大綱改定に向けて、皆様のご意見を伺いたい。

○委員からの意見

(廣島教育長)

- ・新田知事の説明があった通りと考える。大綱と教育振興基本計画、両方合わせて本県教育の指針としていけばよいと考える。

(牧田委員)

- ・私も一緒にすることは賛成。中身を見ても、教育大綱に基本計画がほとんど入っている。これを分けて管理するのは、あまり効率的ではないと考える。

(村上委員)

- ・これまでは、計画は大綱に1年遅れての取組みだと思うが、1年間の中にも流れはあり、同時に考えていく、同時に取り組んでいく方がむしろ良いのではないか。

(南里経営管理部長)

- ・委員の皆様からご意見をいただいた。今回の協議内容を踏まえ、次期教育大綱の策定については、知事に判断をいただきたい。

(新田知事)

- ・今回の協議内容を踏まえ、現教育大綱の次回の改定時期である令和8年度に合わ

せて、教育振興基本計画も盛り込んだ新しい教育大綱を策定することとする。

(南里経営管理部長)

- ・次に、議事(2) 県立高校における教育振興について、有識者に出席いただく。
[品川会長、林教授が入室。南里経営管理部長より品川会長、林教授を紹介。]

(2) 県立高校 における教育振興について

(南里経営管理部長)

- ・事務局から資料2-1及び資料2-2について説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料2-1「県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)」及び資料2-2「南砺平高校における全国募集について」を説明した。

(南里経営管理部長)

- ・提言をまとめられた県立高校教育振興検討会議 品川会長よりご意見をいただく。

品川会長より、資料2-1「県立高校教育振興の基本的な方針について(提言)」についてご説明いただいた。

(南里部長)

- ・品川会長のご意見について、委員の皆様よりご発言いただきたい。

○委員からの意見

(大西委員)

- ・提言の中で学級規模について論じられており、小規模校と中から大規模校、様々な学校規模をバランスよく配置とされているが、現在、県立高校の普通科では6クラスが最大となっており、感覚的には、中規模が一番大きい学校となっている。それ以上の7、8クラス、あるいはそれ以上という大規模校についての話は、会議の中で出てきたのか、また参加委員からはどのような規模が最適とか望ましいという意見はあったか。

(品川会長)

- ・大規模校の必要性、メリット、デメリットについて、委員会から意見はなかったが、中から大規模校が教育の質の向上、生徒の社会性や多様な学びの場の提供、また教職員の働き方改革、教員研修等の機会を提供する等の様々な面から、中規模、具体的には4から8学級ないしはそれ以上での再編が必要ではないかという意見がほとんどであった。

(牧田委員)

- ・前回、令和の県立高校のあり方検討委員会で、品川さんと一緒に委員を務めさせていただいた。そのときも言ったが、高校再編の会議ではない。つまり高校再編会

議というタイトルでやったわけではないので、今回も県立高校教育振興検討会議という名でどこにも再編という言葉は入っていない。そのことから言うと、今回まとめられた検討会議は、基本的には再編だけを議論するものではないという認識である。その上で、現状把握をどのように進めてこられたかお聞きしたい。

- 基本的にいろいろな検討をする場合には、現状把握がベースにあり、現状についてこういう課題があるからこのようにしていこう、と物事は進んでいくと思う。この会議で、委員の方々が実際に学校現場を見るような機会があったのか。
- 委員のリストを見ていると、四、五十年前に高校生だった方々や、20年ぐらい前に保護者をされていたような方々の知見というのは、おそらく、その方々が高校に行っていたとき、そして高校生の保護者をされたときの情報で止まっている。その方々の知見を活かすとなると、少なくとも知見をどこかで上書きしていただかないと、正確な方向性が出てこないと思う。そのような観点から、この会議が進められたかどうかを伺いたいのが主旨だ。

(品川会長)

- 本会議は、牧田副委員長もおまとめいただいた「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」は全員で確認をして、検討結果や報告書の基となったアンケート結果を踏まえている。委員も、大学の先生、教職員OB・OGで地域行政の教育委員会の方、PTA代表の方、経済界代表は私を含め3名、様々な学識経験者や地域の代表、現在も学校教育に何らかの形で関わっていたり、地域の観点で高校教育にご意見をいただきたりする方々の検討会議であったと思っている。
- この検討会議の中で、委員全員で高校を視察することは、この6回のプログラムの中にはなかったが、前回のあり方に関する報告書とアンケートに基づき、議論したのが、学科・コースに関すること。また、様々な新しいタイプの学科・コースに関することも様々な論点から議論し、その結果、やはりより質の高い高校教育を目指すには、ある程度の学校規模が必要ということはほぼ全員の方から出てきた。
- 一方で、小規模校や少人数学級も特色ある学びや地域性等も考慮して考える必要があるという意見もあり、両論併記とした。
- 昨年1年間は、一昨年まで私も参加させていただいた高校のあり方に関する報告書を踏まえて、学科・コースの再編等、よりよいものへのブラッシュアップを議論する中で、ある程度の規模はやはり必要、学びの質や、子どもファースト、教職員の体制整備等から出てきたことで、決して数ありき、数合わせではなく、建設的な議論の結果として再編の必要性が出てきた。一方で、今後の中学生卒業予定者の急激な減少も鑑みてという報告書の立て付けになっている。

(坪池委員)

- 学科等・コースの見直しについて、例えば、コースは、非常に魅力的な教育課程で、一時期人気が高まっていたが、全体の高校生に対する割合が大きくなってきているため、運営が厳しいという状況がある。変わらず魅力的な教育課程である

ことは間違いないが、高校生の減少に伴って運営が難しいという現状があると思う。

- ・グローバル化の1つのキーワードでこれを見直していくということだが、新たなコースを新設していくという議論があったのか、或いは既存のコースについてはある程度整理したほうが良いという議論があったのか、そもそもそこまでいってないのか、その辺りはいかがか。

(品川会長)

- ・そういう意味では後者に近いが、既存の普通科系学科の中でグローバル化を意識した取組みをさらに進展させることが望ましいのではないかと、という意見の委員が多かった。

(新田知事)

- ・昨年の6月から6回にわたって幅広い分野についての議論を重ねていただき、提言をいただいたことに心から感謝申し上げたい。品川さんも、委員の皆さんも本当にお忙しい方ばかりだが、まず敬意と感謝を申し上げたい。これを受けて、この総合教育会議でもより議論を深めていきたい。
- ・その上で、産業界のご意見も引き続き聞きたいと思う。教育の結果、多くの人は仕事に就く、あるいは最近では起業する人もいる。産業界の最新の流れも聞かせていただきながら、今後進めていきたい。
- ・また、保護者の意見も大切に、今後さらに深めていく。質問の学科・コース、どのようなものが今求められているのか、そのようなことを考える上でも幅広く意見を聞いていきたい。
- ・その中で、やはり地域の意見もより聞くべきではないかというご意見も多々あり、もちろん視野に入れていきたいと思う。例えば、氷見高校で行っているフィールドワークとして地域の人達と、農業のこと漁業のこと、いろいろなことを一緒にやって教育の成果が上がっていることもあると思う。これは、大変にありがたいことだと思う。地域と教育の関わりを、今後どのように整理をしていけばいいのかを私は今まだ悩んでいるところなのだが、もし会長からご意見がありましたらお願いしたい。

(品川会長)

- ・例えば、普通科の学科・コースの見直しの議論の中で、複数の委員の方から、地域との連携をデータサイエンスやグローバルと同様に、カリキュラムの中に組み込むべきではないかという意見があった。地域、社会の大切さ、またそこに参画していくことの大切さを高校生に実体験を持って学んでもらう。また、将来の進路選択や自身の社会感を育む上で、地域との共生、地域の関わりを学びの中でしっかりと伝えて欲しい、伝えていくべきだというご意見が多々あり、私も共感した。
- ・そのような視点の探究活動や実際に地域の皆様と連携する取組み、スポーツ等含めて地域の皆様にも高校教育に参加していただくことが、少しずつでも実現でき

ればいいのではないかと思った次第で全く同感。

(南里経営管理部長)

- ・時間に限りもあるため、引き続き、資料2-3 県立学校の目指す姿案について、担当課から説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料2-3「県立高校の目指す姿(案)」について説明した。

(南里経営管理部長)

- ・続いて、学識経験者の立場から、林先生にご意見をいただく。

(林教授)

- ・もともと高校の教員で今は大学におり、教育委員会や全国の学校を見てきたこともあり、思ったことをまっすぐに伝えさせていただこうと思っている。
- ・100年たったら100年前に戻ると言われているものがある。100年後に100年前に戻る。これは日本の人口で、国の予想値だが、2100年に5,000万人を切るとしている。2100年という今の子どもたち、生徒はまだ生きている者もたくさんいると思う。ただし、世界の人口は増え続ける。
- ・そのような中で、今の子どもたちは社会の中でどう生きているのか。生徒、子どもたちに、今、学校現場でどういう力をつけてあげなければならないだろうか。学校は今の様子とは全然違う様子なのではないかと思う。そういう世の中を生きる子どもたちに、どんな力をつけないといけないかという意味で、我々大人は、自分が学んできた学校のイメージで将来のことを言うのではなく、提言の資料8ページにあった県立高校の目指す姿を明示してもらっていることは、とても素敵だと思って見ていた。
- ・どうしても目先の再編のことばかりにとらわれてしまうが、そうではなく、これからの時代を生きる子どもたちに、今、教育でどんなことが必要なのかをもっと考えるべきだと思う。
- ・目指す姿(資料8ページ)に書いてある中で、私が注目したのは「未来を切り拓くことができる確かな資質・能力」、「協働的、多様な価値観に触れることができる選択幅の広いこと」、「社会に主体的に関わっていくこと」、このようなことは、これからすごく大事になると思っている。
- ・3つのポイントでお伝えしたい。1つ目は、これから生きる子どもの資質・能力のこと。2つ目は、学校の規模のこと。3つ目は、これまであまり出てきていないが、教員の資質・能力のことである。
- ・1つ目は、これからの子どもたちのこと。今の高校3年生から新しい学習指導要領を学んでいる。キーワードとして、探究的な学びと情報活用能力が挙げられている。今の高校3年生に情報Iが共通テストに出ることからわかるように、そのような動きをしている。先ほど言ったように、日本の人口は減るが世界は増える。この中で、今言った2つのキーワードは非常に大事で、たくさんの情報が溢れている

が、その中から大事なものを取り出し、自分で考え判断して相手に伝える。そのような教育は、これから非常に重要だと思っている。それを叶えるためにも、やはり規模はとても大事。教育は、最後は人であり、様々な人との出会いは、生徒・子どもたちには非常に重要だと思っている。

- ・ 2つ目は、規模のこと。率直に言えば、学校規模の大きい方がメリットはたくさんある。それは子どもの選択幅が増えることや、教員の業務が軽減されることなど、いろいろとある。子どもは成長していくと夢が膨らみ、増えていく。大人の我々が一番知っているが、夢が多くなると苦労は増える、苦しいが増える。それを鍛える場が学校現場だと私は思っており、その際にも多くの人との出会いは欠かせないと思う。特色ある学校を残すことも、もちろん大事だが、大規模のメリットは大きい。できれば、進路も様々ないろいろな子どもたちがまざり合う、そんな今以上の規模の大きな学校を1つ2つ、魅力ある学校をつくれたら、子どもたちの将来にはいいのではないかとと思っている。
- ・ 3つ目は、教員のこと。あまり触れられていないのかもしれないが、様々な制度によって、子どもの資質・能力を高めることは一定程度効果があるのはわかるが、一番大きく影響するのは教員の資質・能力である。私の専門は理科の化学だが、私は初任校では化学の教員が1人だった。相談できず非常に不安だった。相談する相手は、物理や生物の教員だったが、大きな規模の学校になると教員は複数人配置され、教員自身が鍛えられる場面が非常に多い。そういう意味からも、学校の規模は教員の資質・能力の向上からも大事だと思っている。
- ・ 最後に、これから各論に入ると、様々な意見がこれまで以上に出てくるだろう。私は、最後は大人の意識の問題だと思っている。冒頭に言ったように、これからの学校は我々が学んできた学校とは大きく異なるはず。
- ・ 教育は、大型タンカーに例えられることがある。子どもをたくさん載せた大型タンカーは、急に曲がれないので30度向きを変えるのに3キロ先を見据えて動くそう。私は教員のときは1時間後のことを考えて、どうしたらいいだろうと思って動いていた。教務担当のときは、1週間後を考えた。校長になったときは、1年後の学校を考えた。教育委員会にいたときは、3年後ぐらいをイメージした。国にいたときは、学習指導要領に関わっていたので10年先を見た。当時、国のキャリア組は、二、三十年先を見て動いているなと感じたことがあった。目先の前に、高校教育が例えば20年後、30年後にどうあるべきだという話をまずはして欲しい。そこをスタートにして欲しいと考えている。

(南里経営管理部長)

- ・ 林教授のご意見について、委員の皆様よりご発言いただきたい。

(牧田委員)

- ・ 全く我が意を得たりのご発言をいただき、大変心強く思っている。
- ・ 27 ページの幅広い選択肢の提供という図だが、これは2次元で表されているが、私は3次元になるのではないかとと思っている。高校生は、幼稚園や保育園、小学校、

中学校と上がってきて高校生になる。例えば、幼稚園を卒園してすぐ高校生になることはなく、高校入学前までに、当然、学力や体力やいろいろなことで差がついているはず。しかし、今回の議論では、そこが抜けているのではないかと思っている。子どもたち一人ひとりの能力等々に違いがあることについて、どう対応するのかというところが議論されていないので、今後、習得度によるファクターはぜひ入れて欲しい。

- ・林先生が今おっしゃったことは、私は2月の総合教育会議で同じことを発言したと思っている。全くその通りなので、それに加えて、2つのポイントがこれから重要になってくると思っている。
- ・1つは、今、高校再編においてハードばかり議論しているが、林先生は規模の中で切磋琢磨していくことの大切さをお話された。先程私が言った3つ目の軸の子どもたちの学力レベル等々の違いも考慮したときに、入学するためのシステム、入学試験への対応が今後、必要になってくる。前回の令和のあり方検討委員会でも発言したが、どこにも出してもらえなかった。今後は、それが必要になってくるだろうと思う。
- ・つまり、3つのポリシー、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、グラデュエーション・ポリシーのうち、アドミッション・ポリシーに基づいた入試をすべき。現在のように、一律同じ問題をそれぞれの学校で一緒に使って、その点数だけで合否を判断してしまうというのは、これからやろうとしている方向に逆行していくのだろうと思う。
- ・もう1点は、これは先ほど林先生もおっしゃったが、先生の資質にも関わるし、働き方改革にも関わってくると思うが、スクール・ポリシーを推進していくためのマネジメントシステムが学校現場にはない。外ばかり変えても、推進するためのソフトやシステムがないと多分変わらない、成果は出ないのだろうと思っている。マネジメントシステムを今後いかに構築していくかが私は大事だと思う。これから高校再編の議論をしていく上で、今までの議論プラス、入試改革と学校現場のマネジメントをどうするかというようなポイントが必要だと思う。

(黒田委員)

- ・今、国でも普通科教育をどう変えていくかは非常に大きなポイントになっているのではないかと思う。その中でも特に、社会的役割ということも言われているかと思うが、特に、県立、富山県の高校としての求められる社会的な役割とは一体何だろうとか、これから特にそういう視点から、子どもたちをどう育てていくかということも含めて、特に普通科が今のままでいいのか、林先生も普通科の学校でいくつか校長先生もされていらしたので、何かお考えになられていることがあれば教えていただきたい。

(林教授)

- ・学校の先生は、基本的に保護者、大人の意識に応えたいと思っている。例えば、進学実績を上げないといけないとか。しかし普通科はもっと特色を出すべきだ。普通

科はもっと頑張らないといけないという言い方がいいかわからないが、それぞれの学校の特徴を生かす、新しいものを出していくべきだと思っている。

- ・先ほど牧田委員からあったマネジメントのことについてだが、よく子どもの主体性というが、学校運営上、先生方の主体性が非常に乏しい。先生方が主体的にならないと、おそらく子どもは主体的にならないのではないかと考えている。
- ・とにかくデメリットばかり出てくるのだが、先生方に自分の学校の魅力、非常にいいところを生かすためにどうするかを議論させるとたくさん意見が出てくる。教育委員会が決めて、校長が教員に伝えて何かを変えるというやり方もあるだろうが、うちの学校をどうしたらいいか、という議論を若い先生方から考えて、逆に提案してもらったことがある。そのような組織が非常によかったと思っている。
- ・今、普通科高校の生徒の一番弱いところは、いろいろなことが自分ごとではないこと。大学に行って考えればいいやとか、どうしたらいいかわからないが親が言うから行く、ということが非常に多い。世の中で起こっていることが自分ごとなのだ、自分が主体なのだという意識を、もっともっと、先生方からも働きかけないといけないと思う。また、教育は学校だけでやっているのではないので、保護者や地域の方々からもそのような働きかけが必要ではないか。
- ・入試改革については大事だと思っている。共通テストで情報Ⅰを入れたりするのも、高校教育は入試が変わらないと変わらない、と文科省は思っているからで、何らかのメッセージで、富山県の教育は変わるのだというメッセージを発信することが、私は大事だなと思っている。

(村上委員)

- ・社会がどんどん変わっているので、教育現場はもう変わらざるをえないと思う。子どもたちの手がたくさん挙がるようなものを大人が考えて、選択肢を増やすというやり方を子どもたちに向けて提示していくこと、そして子どもたち自身が、主体性を持って生き生きと取り組める、背中を押してあげられるような、大人でありたいと思う。
- ・18歳から成人となり、直前の高校3年間はとても大事で、多様な考え方に触れ、いろいろな人に会って切磋琢磨し、いろいろなことに挑戦し、失敗するかもしれないけれども、そういうことを試行錯誤していける大切な3年間だと思うので、学校規模に関してはある程度あったほうがいいと思う。
- ・小規模で目が届きやすくきめ細やかな指導は、小規模の学校でなくても、少人数を対象にしたクラスなどでやっていくことが可能なのではないかと考えている。小規模校が増え、持続可能ではなくなってしまうようなことは避けていただきたい。
- ・人口減少の状況を見ると、10年後よりも15年後の方が、拍車がかかって少子化が進んでいる。私は小児科医なので、これを見ると本当に残念な気持ちにはなるが、その時点での子どもたちが学べる環境を継続して作っていただくようなことを長期的に考えて欲しい。

(大西委員)

- ・ 県立高校の目指す姿ということでお話をいただいたが、県立という言葉を外しても良いのではないかと考えている。私立高校も、富山県内の同じ資源として考えていくのがよいのではないかと考える。本年度より、私立高校の授業料、入学料も無償化ということもしており、いろいろな選択をする子どもがいることを考えても、これを機に公私の連携、情報共有や教員や生徒の交流を含め、連携をもっと強化するのがよいのではないかと考えるがいかがか。

(林教授)

- ・ 全く同感。教育委員会に県立学校、学術振興課に私学があり、部屋も離れている。組織として難しいところはあると思うが、高校教育を考えた際は県立も私立も、もっと言うと、県立高校には全日制だけではなく、定時制、通信制もあれば特別支援学校もある。全体を意識して、本当はもっと情報を共有して一緒にやるのが大事だと思っている。

(坪池委員)

- ・ 資質・能力で探究や情報活用ということだったが、このあたりはやり方も方向性もある程度決まってきたと思うが、それを支える非認知能力みたいなものがあるのではないかと考えている。
- ・ 私が採用になった昭和 50 年代は校内暴力で荒れていたが、一方で群れていた。将来どうなるのかと思っていた子どもたちが社会人になった様子を見ると、案外、結構うまくやっており、切磋琢磨や群れ体験というのは、高校で学んだこともあったのではないかと考えている。
- ・ 今、進めている探究や情報活用能力ともに、先ほどの説明では多くの人の出会いというキーワードがあったが、そういう方法論だけではなく、一方で非認知能力をどう鍛えていくかが課題としてあるのだろうと思う。そうすると、小さな規模ではなかなか難しいのではないかと考えるが、そのあたりはどうか。

(林教授)

- ・ こちらも全く同感。非認知能力、ペーパーで計れない能力が大切なことを大人はみんなわかっているはず。ペーパーでどこまで子どもの能力をどこまで測っているだろうか。生きていく上ではそれ以外の能力がとても大事で、今だからこそ、それを大事にする教育を進めていかないといけない。だからこそ規模は、私は大事だと思っている。そのようなことをもう一度、きっちり考えていくことが大事な時期かと思う。
- ・ 教育は、歴史を見ていると振り子のように振れる。学力重視に行った場合、ついでこられない子どもたちがたくさん出てきて荒れる。では、ゆとりだといって大きくゆれて、今度は学力低下論が起こる。長く歴史を見ると、こういう振り子がずっと揺れるが、そのような二項対立的な発想になって欲しくないと思っている。

(新田知事)

- ・私は、やはり学校は楽しくしていきたいと思う。というのは、自分にとって高校はあまり楽しくなかった。もし不登校という言葉がその頃あったなら、私はそうになっていたのではないかと思う。しかし、親が行けというから行っていた。今、中学生に何で中学に行くのだと聞いたら、義務だからという子も多いそうだ。高校は義務ではないけれども、今や高校はほとんど全員が行く時代だから、義務的に行くのではなくて、楽しく通って欲しいと思う。
- ・先生あるいは校長先生として、学校を楽しくしようという発想、あるいはそういう努力というのはあったものなのか、そこまでは考えていられないということだったか。

(林教授)

- ・実は、それについてすごく考えたことがある。私も高校時代、すごく面白くなかった。ほとんど受験勉強みたいな感じのイメージだった。
- ・普通の授業はどうしても生徒は受け身である。先生は与える側、生徒は受け取る側になってしまいがちだが、最近の授業はそうではなくなってきている。授業中にいかに子どもたちの主体性というか、子どもの頭を働かせるか。聞いているだけではない、覚えるだけではない、そのような取組みが授業中も必要になっている。
- ・学校は授業だけではなく、高校では部活動など様々な教育活動があり、その中で、これは子どもの何のためになっているのだろう、子どもに考えさせるときにどうしたらいいだろうと考えることはすごく大事だと思い、いくつか取り組んだことがある。とかく先生が与えて終わりということが多いのだが、そういう取組みがよかったなと思っている。

(新田知事)

- ・ギャグを言って楽しくとか、そんなことではなく、最初は手間がかかるが、やはり子どもが主体的に考えるような場づくり、仕組み、そういう進め方なのだろう。

(林教授)

- ・まずは先生方が、子どもの何のために、子どもの頭をどう働かせようか、そのような意識を持つことが大事と思う。忙しくなるとどうしても与えてルールを引くだけで終わってしまうのだが、それが大事と思って過ごしてきた。

(南里経営管理部長)

- ・品川会長、林先生におかれては、ここでご退席となる。
 - ・品川会長、林先生、どうもありがとうございました。
- [品川会長、林教授は退室]

(南里経営管理部長)

- ・続いて、事務局から資料2－4について説明する。

丸田県立高校改革推進課長が、資料2-4「今後の進め方について（案）」について説明した。

（南里経営管理部長）

- ・委員の皆様よりご発言いただきたい。

○委員からの意見

（黒田委員）

- ・今回出された提案の最後の再編統合について、そこにだけ4学級以下を対象とするというような学級数が出てくる。それは、4学級以上あるから自分たちは対象ではないというように思われるので、そこはそのような形で伝わらないようにしていかないとまずいのではないかと。
- ・というのは、先ほどもあったように、何年後あたりを想定するかによるが、これまで富山県にはなかったサイズの大規模校を想定した場合、どこの学校も変わらないといけなくなると思う。今からでも、それぞれの学校や地区で、どういう強みを出し合い新しい高校を作るかというような議論を起こしていく必要があるのではないかと。
- ・その中で、先ほど林先生のお話の中にもあったが、ぜひミドルリーダー、例えば10年後を考えるのであれば、10年後その学校の管理職になるぐらいの年齢の先生方に参加していただいて、どういう学校を作るのかという議論をしていただくことが、今回の進め方の案にはないので、ぜひご検討いただきたい。
- ・やはりその世代の人たちが、どういう高校を作らないといけないのかを真剣に考えることは、富山県の高校教育を良くしていくところで、非常に重要ではないかと思う。ぜひ若手の先生、今の中堅クラスの先生で、地域ごとにワークショップをやってみるのはすごく重要なのではないかと思う。

（坪池委員）

- ・新しい地域の教育を考えるワークショップに大変期待している。ここに出ている市町村教育委員会関係者というのは、どういう方を想定しておられるのか。

（丸田県立高校改革推進課長）

- ・本日のご提案に対して、ご同意いただければという前提ではあるが、各市町村の方へ相談に上がりたいと考えている。

（坪池委員）

- ・できれば、教育長がいいと思っている。ワークショップに出てくるいろいろな意見、例えばPTAの意見もあるが、中学生や保護者がどんなふう考えているかということはわかるが、それを市町村教育委員会がどう評価しているか、どうとらえているかは大事なことだと思う。そういう意味では、専門的な知見と、それから中学校の進路状況がどうなっているのか、保護者の願いはどうなのか、中学生は何を考えているのか。

ているのか、と言うようなことがわかって、なおかつそれを市町村教育委員会がどのように考えているのかといったようなところを深めていくと、子どもまんなかの議論になるのではないかと考えている。

- ・いずれにしても、この議論がベースになって、この後ずっと進んでいくようなので、ここは丁寧に深まる議論をお願いしたい。

(牧田委員)

- ・ワークショップ等々を進めるにあたって、現状を正しく把握することは不可欠だと思う。
- ・例えば、今、我々がそれぞれの高校がどんな状況なのだろうと、いち早く知る方法は、入試の合格者の最高点、最低点、平均点がどうだったのだろうかなど、公表されていないものを見ることによって、その高校の実態、そしてそこに通う子どもの実態が見えてくる。
- ・先ほど品川さんに、今の高校生の課題は何ですか、と本当は聞きたかった。前回の令和のあり方検討会の時とは確実に変わっているはず。日々刻々と変わっていく子どもたちの現状を常にウォッチしていかないといけない。このワークショップも、古いデータが出てしまうとミスリードになってしまう可能性があるため、そこはぜひ気をつけて欲しい。だからこそ、現状把握にこだわっているため、ぜひ忘れていただきたい。

(大西委員)

- ・今の牧田委員の発言と重なるかもしれないが、現状把握について、このワークショップの材料としてでも良いと思うので、ぜひ今の子どもたちがどう考えているか、どう感じているか、実際の子どもの思いを拾っていただきたいと思います。
- ・どんな高校が理想なのか、どんな高校が楽しいのか、楽しめているかどうか、こんな学びがしたい、大学や職業などについてはどんなことを知りたいのかというようなことを、方法は難しいかと思うが、高校生とやま県議会などの利用になるのか、それを先生が取りまとめるのか、それはわからないが、ぜひ、子どもたちの今の思い、何を感じているかを拾っていただけたらと希望する。

(南里経営管理部長)

- ・最後に、新田知事よりご発言いただく。

(新田知事)

- ・今後の進め方として、テーマを持ってファシリテーターも入れて議論を進めていくワークショップというやり方が良いのではないかと提案を2月の定例県議会でいただき、それは良いことだということで、このように取り上げることにした。参加者についても、我々の想定は書いてある通りだが、10年後に管理職になるような中堅クラスの先生のご意見もより大切なのではないかとご意見はもっともだと思う。

- ・市町村の教育長などにも入っていただければどうか、ということもそのように進められればと思う。特に今後、中高一貫校教育を考える場合には、小中と高で切れていてはできないので、冒頭にも言ったように、シームレス、一気通貫で考えることも必要と考えている。
- ・大西委員からあった子どもの意見を聞く場について、ワークショップとは別になると思うが、どういうやり方ができるのかを検討していきたい。
- ・今日ご同意が得られたとしたら、ワークショップという形式でやっていく。またそれを受けた形で、地域の教育を考える意見交換会にも取り組んでいくことで今後の進め方とさせていただく。

(南里経営管理部長)

- ・以上で本日の議事を終了する。

この後、事務局より、閉会の挨拶を行った。

以上。